第 51 回　奈良県ジュニア美術展覧会概評

日本画の部

搬入点数が 12 点と、少し寂しい数字ですが、五十号大の作品が多く、充実した展示となりました。

動物をモチーフとした作品が多く、豊かな表現の、作者の愛情を感じる楽しい作品群が今回の特徴です。現代の若者の興味のあり様が見えます。

＊ジュニア県展賞「生」　徂徠　俊之亮

良くまとまった画面構成と落ち着いた配色で、モチーフのハムスターを引き立てています。グレーのトーンの美しい作品です。

＊知事賞「だいすきとだいすき‼」　荒木　結衣

三匹の猫の配置、ポーズがよくまとまり、縦画面で動き、表情の面白い作品です。毛描き、よく頑張りました。背景の要素が少し多すぎるようです。もう少し整理しましょう。

＊奈良県議会議長賞「刻」　亀村　美亜

ただ一点の風景画です。窓を中心に室外と室内を開けた窓で空間の連続感を出し、奥行き表現を巧みに出しています。遠景の山、池テラス、室内とドライフラワーと変化のあるモチーフの配置も効果的です。

洋画の部

今年は、中学生の出品数が非常に多く、全体での出品点数は 77 点の増加となりました。

描画材料の扱い方にも工夫された作品が多く、年を重ねるごとに表現力の質の高さが見られます。又、「何を表現したいか」というテーマも、それぞれの作品から強く感じとれる作品が多く、絵画を追求する姿勢に嬉しく思いました。

来期も、若いエネルギー・感性にあふれた作品で、会場がいっぱいになるよう期待しています。

＊ジュニア県展賞「黒くあるべきだと。」　西田　結唯

材料や絵の具のもつ技術、技法にも苦心がありました。表現力も力強く、心に留まる作品です。デッサンに自然なポーズを油絵で表現している女性を、画面一杯の静かな表現が鑑賞者の心に留まる作品として推薦されました。

更に技法や色彩の明暗に、時間をかければよくなるように期待します。

＊知事賞「孤高の隠明」　土田　颯眞

よく練られた色調で全体をまとめ落ち着いた風格が出ています。特に背景の創作的な模様が画面のマチエールとなり効果的です。一部コラージュを加え主題を盛り上げています。全体によく考えアイディアをきかせた良い作品が出来ました。

＊奈良県議会議長賞「群衆」　田引　宏和

顔のオンパレード、点描で描かれた顔、水彩で色づけした顔、線だけで描かれた顔等、様々な表現方法で無数の顔が描かれています。この様な描き方をすると画面がバラバラになってしまいますが、この作品は見事統一されていて見ごたえがあります。アイディアが良かったです。

彫刻の部

この様な立派な会場に作品を並べられる出品者の皆さんは大変幸せです。会場の万葉文化館、当展関係者の方々のご苦労に心より御礼申し上げます。

鑑審査はすべて投票で厳正公平に行いました。もともとある形に手を加えた豊かな発想の作品も現われ、技法・素材も様々で大変楽しい展覧会になりました。

＊ジュニア県展賞「喜怒哀楽」　田井　颯人

大変硬い素材に真正面から取り組んだ作者の努力の跡が審査員の心を打ちました。彫刻の原点とも言える作品です。

＊知事賞「生きる化石」　西嶋　豊空

スケール感のある楽しい作品です。作品の色も良く考えておられ、会場を引き締めています。

＊奈良県議会議長賞「羽」　山根　斉太

隅々まで行き届いた作りがある作品です。石を彫っているのに柔らかさを感じる不思議な力があります。

工芸の部

今年の展示会場は奈良県立万葉文化館に変更になった。以前とスペース的には変わっていないが、出品作品は去年より少なかった。

陶芸作品は多いが、工芸にはガラスや金属、漆、染織物などほかの素材の出品も期待される。

＊ジュニア県展賞「僕を見て幸せに」　東　柚月

象がリアルで、身体のしわや耳の柔らかさがよく観察表現されている。願わくば正面に配置されている足の裏まで繊細さがあればなおよかった。

＊知事賞「きれいな花にも裏がある」　本田　光一

花が動物に変化していく様子を異素材を巧みに使い、個性的な作品であるが、台座も作品の一部としてもう少し工夫がほしかった。

デザインの部

総評としては、デザインの基本として新しい意匠を発想して、社会に自身の考えや感性を訴えるという意思が欠けているように思う。創作者自身の生活の感情の露出に終始しているようだ。自己の殻を破って、大きな世界に目を向けて発信を試みてほしい。

＊ジュニア県展賞「亀は万年」 ハンセン キリオナ 愛

連続する手のひらの上を一匹の亀が、画面の周囲に配された歴史上の美術作品を巡るというアイディアになっている。ラフな描線が自由な動きを生んでおり、ヴィヴィッドな色を枠づけながら、白い面を広くとった画面を活気づけて、愉快な歴史展望を提供してくれる。

＊知事賞「蒼と雲の都市」 杉山 耀一

透明感のある青のバックを空と見たてて、中央部にガラスのような長方形のプレートが、何枚も重ねられた新たな都市空間を作っている。この空を見上げる青年の後ろ姿が透明な青い輪郭となって、夏空の爽やかな画面を作っている。

書芸の部

第 51 回展は昨年の「なら歴史芸術文化村」から「奈良県立万葉文化館」に会場が変更され、入賞・入選作品すべてを展示できることはたいへん喜ばしく思う。前年度より若干出品点数が減少したものの作品の完成度はこれまでと変わらず充実したものが多く見られ、日ごろの錬成の成果を感じるものであった。紙面における文字の大きさ・収め具合に一考を要するものもあり、今後の課題としてほしい。

＊ジュニア県展賞「まばらなる」 吉岡 彩芭

和歌二首を大字仮名作品として仕上げている。筆力ある線質は変化に富んでいる。全体構成や墨量の変化を生かし、見事な立体感を表現した秀作である。

＊知事賞「臨 曹全碑」 小松 美優香

漢時代の代表的な隷書体である曹全碑の臨書作。原本に真正面から対峙し、伸びやかな運筆で書かれ、整然とした配列で余白も美しく表現できている。

写真の部

写真は技術の発展でますます楽しい道具になっています。第 51 回奈良県ジュニア美術展覧会に応募された皆さんもきっと写真の魅力に夢中になっておられるでしょう。

入賞入選された皆さん、おめでとうございます。日々の生活で楽しいこと、発見したことを周りに人に伝えることができるのが写真です。そのためには、見たものそのままではなく、感じたことを自分の目を通して表現して最後まで完成させた方が伝わりやすいと思います。画面のなかの主題を支える背景や小さなわき役、そして仕上げたプリントの色にも注意して、さらにその内容にあった額にまで気を配るなど、ファインダーやモニタを通して、作者の心が動いたものを表現にむすびつけて、完成度を上げると、きっと作品の魅力が何倍にもなると思います。もうひとつ、題名もとても重要な作品の一部です。題名は作品を説明する最小単位のコトバです。語りすぎないこと、控えめすぎないことが大切です。

残念ながら惜しくも選外になってしまった皆さんへ。選ばれなかったといって、すべてがダメではありません。自分の目を信じてこれからもぜひとも写真を楽しんでほしいと思います。中学生の応募もたくさんあったようです。次回のチャレンジを楽しみにしています。

＊ジュニア県展賞「ぽつぽつ」 池山 永

今年もバリアブルな作品を出品願った中で、東京タワーと水滴を、大胆にテーマ化され、ボケとピント合わせで造られた、対比が伝わるアートとなりました。その中でもポイントは、無数の水滴に写るタワーの反転影テクニカル表現が素晴らしく、ボケの背景と相まっての遠近感も含め、作者の内なる豊富な創造性に感銘を受けた秀作でした。

＊知事賞「怒」 辻 陽世里

むずかしい猫のフェイスアップでありながら顔に対し、眼力の強い対比表現に迫力ある生命の内面を覗き込んだ作品でした。

作品は「見の目弱し」「観の目強し」の言葉通り、被写体を深く見つめられた感受性に感銘を受けた作品でした。

第51回奈良県ジュニア美術展覧会審査員

日本画	多留 裕二	吉田 みゆき	渡邉 章雄	
洋画	今中 和義	岡崎 浩	岡田 俊一	
彫刻	石増 敏枝	杉村 仁	鈴木 正三	
工芸、デザイン	大塩 正	北山 あけみ	嶋 高宏	嶋田 宏司
書芸	井上 雅章	栢木 ふみ	河合 保秀	
	喜多 芳邑	武村 榮子	山本 肇一	
写真	澤 戢三	吉川 直哉		

敬称略・五十音順